

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500296		
法人名	花巻農業協同組合		
事業所名	グループホームとどろき		
所在地	〒025-0132 岩手県花巻市北笹間13地割71番地		
自己評価作成日	令和8年4月2日	評価結果市町村受理日	令和8年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした共用ホールと談話室や居室があり、各利用者様がそれぞれに好きな場所で過ごさせてもらっています。平均年齢が90歳と高齢化していますので、個々の体調に応じてADL維持のために軽体操やリハビリを兼ねたレクレーションを取り入れて行っています。また、入浴以外に足浴を行い、血行改善や皮膚疾患の予防に繋がっている方もいます。利用者様の思いにそったケアの実現に向けて、センター方式のアセスメントを基本としたケア実践に努めています。また、ご家族、ご本人の希望により看取りも行うことができる施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

花巻市西南の田園地帯にある農協の広い敷地の一角に位置する開設9年目の事業所である。利用者は敷地内の菜園で野菜や花を栽培し、世話や収穫を楽しんでいる。事業所理念として「目くばり・気くばり・思いやり」を掲げ、利用者を尊重し豊かで穏やかな生活を送れるよう支援し、自立支援介護の研修も取り入れながら、認知症利用者の方々の周辺症状の理解、緩和にも努め、利用者一人ひとりその方らしい暮らしの提供に取り組んでいる。地域交流が活発で、幼稚園、小中学校、学童クラブのほか、農協女性部や地区社協とも交流し、職業訓練校の実習生も受け入れている。運営推進会議からの要請を受け、地域防災協力隊として、地域住民の方の協力が得られ、今後も協力者の拡充を図りたいとしている。特に、令和5年に作った「看取り介護指針」により、協力医・訪問看護師との協力のもとで看取りケアを行い、エンゼルケアも取り入れながら、本人や家族の安心と満足が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をホール、事務所に掲示し朝礼や定例会で唱和し、共有して実践に繋げている。	事業所の理念は、事業所開設当初からのものを継承している。ホール、事務室に掲示し定例会で唱和も行い共有を図っている。毎年度事業所目標を設定し、事業所目標に沿って職員は個々の目標の達成と研修に取り組み、年2回、管理者との面談を行い目標の進捗状況を確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域への広報配布、学童との交流継続、地域のお茶のサークル活動の方との交流、地域の祭りに参加、幼稚園の神輿見学等、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として交流している。今年度は、地域の認知症の方への声掛け訓練の講師を職員が行っている。	隣接の笹間地区振興センターを会場に、市社協が主催する祭り等の行事に参加している。地域福祉活動計画の実践の一環として、職員は認知症学習会の講師を依頼され、努めている。また、地区の文化祭には、利用者の作品を出展している。農協女性部による清掃ボランティアやバザーによる寄付もいただいている。定期的に発行する事業所広報誌は振興センターを通じて地域に回覧し、情報発信に努めている。職業訓練校のヘルパー実習の受け入れも行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、社会福祉協議会主催の地域福祉活動計画の委員として出席し、地域の人々に向けて発信している。また、広報紙を振興センター等に配布し、施設の様子を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の委員に全利用者のご家族になっていただき、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2年前から利用者の家族全員を運営推進会議のメンバーに委嘱しているが、出席者は少ない。会議記録は委員全員に郵送している。年に1回、会議の機会を利用して防災訓練に参加していただいている。実施後には、委員から反省、意見をいただいている。地域防災協力隊の設置について委員会から要望されている。	家族委員が参加しやすいよう会議日を柔軟に変更し、多くの委員からの意見、提言を日々のサービス向上に反映されるよう、工夫検討されることを期待します。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事故報告等日頃から市の担当者と連絡を取りながら、業務の実情等報告しながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当課とは、日常的な情報交換や介護認定変更等の手続きのほか、制度改正や報告等も連携システムによりメールで情報共有している。事業所として地域包括支援センター主催の研修へ参加し、市からは運営推進会議に職員が出席し、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を設け、定期的に研修も行っている。	管理者、主任、勤務職員で3ヵ月ごとに委員会を開催している。毎月の法定研修の一つとして、年2回身体拘束関係の研修を実施している。日常ケアの場面では、日々変化する利用者の状態を把握し、対応方法などを送り等で検討している。年1回、全員、虐待の芽チェックを行い、外部の方に分析、評価をお願いし、客観的な振り返りを行う機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について年2回の研修会及び認知症研修等で学ぶ機会を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が岩手県成年後見制度促進ネットワーク会議の委員となっており、自立支援事業や成年後見制度の推進等を関係者と話すことはあるが、現状、当施設のご利用者・ご家族様には必要とされる方はいらっしゃらない状況。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定等の際は、ご利用者・ご家族様に説明時質問を受けながら理解と納得をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の会話の中で希望・要望があれば可能な限り叶えるよう支援している。ご家族様とも訪問・面会時や電話、メール等で連絡をとながら伺っている。	毎年、法人として家族向けにアンケート調査を実施している。特に意見、要望はなかった。毎月居室担当者から、健康状況や日常の生活の様子等を「ケア報告書」として家族に送付している。年間4回の事業所広報誌「とどろき四季だより」でも、行事や活動の様子をお伝えしている。家族から、もう少し詳細に伝えてほしいとの意見もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員アンケートや毎日の申し送り、月1回の定例会や定期的な面談の中から出来る部分から反映している。今年度からは、生産性向上委員会で課題を共有し、課題解決に向け取り組んでいる。	毎月の定例会や、年2回の個別面談により職員の意見や提案を受け止めている。毎年職員アンケートを実施し、外部の専門家に分析を依頼している。マニュアルの見直し、外出の希望、業務改善等、設備等改修などについて、生産性向上委員会にて適宜プロジェクトを設置し意見交換、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課を実施しつつ、職員アンケートを実施しメンタル等も把握しつつ要望も聞きながら人事等配慮している。仕事のやりがい等各自に面談時聴く機会を設けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内の介護向上研修、事業所内の認知症研修でタイプ別判定の実施、OJT等を進めている。また、今年度については、介護向上研修に外部の指導者を招き、定期的な技術力向上に取り組んだ。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	いわて地域密着型サービス協議会の勉強会や事例検討会に出席し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント資料等を基に、コミュニケーションを多く持ち、表情や仕草にも気を使って、思いを聞き取る努力をしている。また、笑顔でコミュニケーションを図る事で安心していただくよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前のアセスメントを丁寧に聞き取り、ご家族と密に連絡を取りながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスを導入する段階で、ご本人とご家族等が「その時」まず必要としている支援を聞き取り見極め、他のサービス利用も含め、対応に努めている		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	センター方式を用いて生活リズムを観察し、その人らしい生活ができるよう職員が意識し関わるようにしている。ご本人のできる事に着目し、お互いに「お願いします」「ありがとうございます」「お互い様です」という声が聞かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月居室担当が状況報告書作成しご家族に送付している。生活必需品の購入、通院等ご家族様への役割も極力お願いし、ご家族様との関係性を切らないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様に聞きながら、自宅への外出、馴染みの物を居室へ置くなど、環境に配慮している。また、友人や親類との面会も対応し、社会との関係性を継続できるようにしている。	コロナ禍で続いていた面会や外出の制限が解除され、家族や知人が来所されたり、毎週自宅へ外出される利用者もいる。花巻農協本店(おっほの館)で毎月開催されるオレンジ談話室に毎回2名の利用者が参加し交流を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの性格や認知症の症状の進行を配慮し、気の合う利用者同士が関われるテーブル配置等工夫している。また、レクリエーションを通して交流出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了後にも必要に応じご本人、ご家族の経過をフォローしている。また、以前利用していたご家族が来訪されることもあった。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を利用し一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をご本人、ご家族から聞き取るように努めている。	言葉で思いや意向を表出できる方は半数で、難しい方は表情や仕草から汲み取るように努めている。把握した情報はタブレット端末に記録し、共有している。センター方式を利用し、居室担当を中心に利用者の思いを把握し日々のケアに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を利用し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をご本人、ご家族から聞き取るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の暮らし状況の記録や各チェックシート、申し送りにより情報共有し現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当がモニタリングを行い、ケアマネジャーが確認している。ケアマネジャーが利用者本人の意向を基本に、家族からの意見や医師、看護師からの助言を加味し介護計画の原案を作成し、職員間で話し合っている。計画期間は6ヵ月又は1年を単位としているが、状態に変化があれば随時変更している。見直しの都度、家族に説明して同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入し、タブレットでいつでも見られるようにし情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	今年度より、グループホーム待機者のリロケーションダメージを少しでも緩和し、スムーズに入居できるよう、認知症共用型通所介護事業所をスタートし、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問美容、訪問歯科、農協女性部の協力での花植え、本人ミーティングや祭り等への参加、地域の社会資源を活用しながら、安全で、生活に豊かさを感じられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医を原則家族同行で受診している。家族が遠方の方や車椅子利用の場合には、職員が対応している。週1回の訪問介護、月1回の訪問歯科が来所しており、適宜助言を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、入院時等に同行し病院関係者との情報交換や相談に努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、訪問看護等との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「とどろき看取り介護指針」(令和5年2月作成)を説明し、同意を得ている。協力医師、訪問看護師との連携のもと、経験豊富な職員の協力を得てスムーズに看取りの体制が確保できた。看取りを希望され、最期は、他の利用者、職員が全員で傍で過ごしお見送りしている。職員は、定例会議で職員アンケートを行い振り返り、フォローアップを行っている。	馴染みの場で馴染みの人に看取られることは、本人や家族の願いです。充実した体制を整え、職員による心のこもった看取りは、本人や家族の安心であり、今後も継続され経験を積み重ねられることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AED等急変時の対応等の研修を実施している。応急手当の訓練は実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災・水害における避難訓練年2回実施している。	年2回、夜間想定も含めた避難訓練を行い、指定避難所は隣接の振興センターとしている。災害の発生が日中であれば、JA職員の協力は可能だが、夜間帯の協力者の確保が課題となっていた。現在は、地域住民1人から防災協力隊として了解を得ている。非常用の食材等は3日分を備蓄し、発電機は半年ごとに動作確認を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の生活歴、性格等を把握しその方にあった言葉掛けの対応をしている。	一人ひとりを尊重し権利を守り、無為な時間を過ごすことがないよう、タオルの干し方、茶碗拭き、床のモップ掛けなどやりたいことを尊重してお願いしている。排泄時や入浴時は羞恥心に配慮したケアを心掛けている。異性介助を拒まれる方には、同性職員による介助を行っている。呼称は「～さん」付けにし、適切な言葉使いに配慮している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	飲み物やテレビ番組、音楽の選択等、その都度希望を伺って対応している。意思表示が難しい方は表情等推察している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	意思確認しながら身体状況、環境に合わせ、可能な限り希望に沿って過ごしていただくよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	離床時の整髪や衣類の調整、手直しを手伝っている。爪切り・散髪の定期的支援は実施している。行事でおしゃれをする事も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	おやつレクで、一緒にデコレーションをしたり、誕生日には、ケーキを召し上がり、ご本人様の嗜好に出来るだけ対応出来るよう努めています。また、食事の片付けについては、毎食時お手伝いいただいている。	食事は、外部事業者からの主菜、副菜を使用し、事業所では、調理担当職員がご飯、みそ汁を作って提供している。提供される主菜にはムース食もあり、高齢者に必要な摂取カロリーが管理された献立が提供できている。敷地内の畑で収穫した野菜を添える事もある。誕生日や節句などの行事食やおやつレクは、利用者の嗜好を取り入れ喜ばれている。コロナ禍以降は外食の機会はなくなっているが、家族が付き添って外食を楽しんでくる方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分・食事摂取量のチェック・記録をしながら、栄養補助食品等の提供やムース食を取り入れ、栄養摂取量に配慮している。以前の食事習慣に近づけるよう馴染んだ食器を持参し食事をしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施している。また、口腔内に問題がある方には、訪問歯科診療を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェックし、一人ひとりの排泄パターン、習慣に沿って声掛けしトイレ誘導している。出来る行為はご自身で行っていただき、見守りや一部介助で支援している。	概ね自立している1名のほか、個々の排泄状態に応じ、リハビリパンツ、おむつ、尿取りパットを使用している。職員は、排泄チェック表に沿って誘導、介助を行っている。入居前にオムツ使用の方がリハビリパンツに改善した例もある。夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェックしながら水分調整や便秘薬の調整をしている。毎日のラジオ体操や必要に応じて排泄サポートを行い、腹部マッサージ等も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	基本的な時間、曜日等は施設の業務により決められているが、ご本人の体調、意向等により時間、日にちを替える配慮は行っている。	週2回入浴を提供している。入浴を敬遠する方には、曜日や時間を変えるなど柔軟に対応している。また、シャワーや清拭のほか、水虫の方は足浴も行い、菖蒲湯、リンゴ湯なども提供し、職員とマンツーマンでのひと時を過ごしている。冬季には床暖房を使用し、体調管理に配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の希望で、室温・明るさ・衣類や寝具の調整を行っている。また、体調に合わせて休息時間を設けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬の説明書、医師からの指示等の情報共有している。症状変化時は訪問看護や主事医に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に1回は行事を実施、また、本人ミーティングにも参加されたり、ドライブや散歩等で外気浴を行ったり、ご本人の生活歴や嗜好等に配慮して気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お花見ドライブやオレンジ談話室、地域のイベントに可能な限り出掛けるよう努めている。	穏やかな日は事業所周辺の散歩、花壇や畑の世話をしている。毎週家族が来所し、外食、外泊する方もいる。秋には、近隣の文化祭にドライブがてら行っているが、今年度は未実施である。毎月開催のオレンジ談話室(JA主催の介護支援会)の交流会や地域行事に参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持を希望され、ケア上必要な方には所持していただいていたが、現在は希望してる方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	職員が電話をかけ、ご本人と代わっていただくことはある。手紙のやりとりは、現在は希望される方はいらっしゃらない。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適に過ごす事が出来るよう、エアコンや加湿器を活用し、温度、湿度等に配慮している。また、ホールの壁面には職員と利用者が一緒に作成した季節の飾りを装飾し、季節感を感じていただいている。また、長椅子等状況に応じ、配置を変更し、居心地の良い環境をつくる工夫をしている。	広々としたホール兼食堂は天井が高く開放的で、12畳の小上りがある。エアコン・加湿器・空気清浄機で快適な温度湿度が保たれている。季節感を味わえるように、壁面装飾やみずき団子飾りなどと、工夫している。三食の食事や10時、3時のティータイムを楽しみ、カラオケシステムで歌や体操を行うなど、居心地のよい共同空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間のスペースが広いので、小上がりや長椅子の配置を工夫して、自由に過ごせる空間の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご家族とも相談し、馴染みのある布団や衣装ケース、飾り物等を持参いただいている。また、ご自分で制作したものを飾るなどしながら、居心地良く過ごせるような環境を整えている。	居室は、エアコン・床暖房・ベットが備えられ、身体状況により低床ベットの方もいる。利用者は慣れ親しんだ家具や椅子、ラジオを持ち込み、壁面に家族写真や手作り作品、カレンダーが飾られている。室内は清掃が行き届き、清潔が保たれた潤いのある居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	床材が柔らかい素材のものを使用しているなど安全に配慮した作りとなっているが、全体的に広い作りとなっているため、職員の見守りの範囲が広くなり、特に転倒リスクが高まっている状況。ご本人の体調等日々の申し送りでリスク低減を行っている。		